はじめに

前回、2 回にわたって「つとめ」に関するお話を続けてきましたが、今回は「さづけ」について解説していきたいと思います。

01. 身上たすけの「さづけ」

教祖は、元治元年 (1864 年) の春頃、お屋敷に集まってくる人々に「扇」「御幣」「肥」の「さづけ」をお渡しくださるようになりました。

「扇」と「御幣」のさづけは、それを手に持ち、その動きによって神意を悟ります。また「肥」のさづけは、土、灰、糠を混ぜ合わせたものを田畑に撒き、農作物の生育のご守護を頂くというものでした。

「みかぐらうた」の一下り目に、

一ツ　正月こゑ（肥）のさづけは　やれめづらしい
二ニ　につこりさづけもろたら　やれたのもしや（みかぐらうた 一下り目）

と歌われています。それは教祖が、人々の成人に応じてお見せくださったご守護の世界でありました。

明治７年 (1874 年) に、教祖は初めて赤衣を召されました。ちょうどこのころから「おふでさき」の中で、親神様のことを「神」から「月日」と呼ばれるようになり、ご自身が「月日のやしろ」であることを明らかにされました。そして

- 一に息（息を吹きかける）
- 二に煮たもの（煮た白米を包んだものを与える）
- 三にてをどり（みかぐらうた第一節にあたるお歌を唱えて取り次ぐ）
- 四にかんろだいてをどり（みかぐらうた第二節、第三節にあたるお歌を唱えて取り次ぐ）

と、4 人の人たちにそれぞれ 4 通りの「さづけ」をお渡しくださいました。これらはすべて「身上たすけ」に関わるものでした。

この中の三つ目の「てをどりさづけ」が、現在私たちが戴いているおさづけです。「あしきはらい」から始まるので「あしきはらいのさづけ」ともいいます。

02. 別席を運び、ようぼくとなる

明治 20 年 (1887 年) に教祖が現身を隠されてからは、別席順序が定められました。基本的に、毎月一度おぢばへ帰り、9 回の別席を経て、「さづけの理」を渡され、ようぼくとなります。

ようぼくとは、漢字で「用木」と書きます。陽気ぐらしの人材を意味しており、ご存命の教祖は、この理に乗って、たすけ一条のうえにお働きくださいます。

ようぼくは、教祖の世界たすけの道具衆ですから、できるだけ多くの病み悩む人々に、おさづけを取り次がせていただきましょう。願う人の誠真実と、受ける人の心定めとが一つとなって、ご守護を頂く道が開かれてゆきます。

教典には、次の一節があります。

> さづけの理は、たすけ一条を誓う一日の日の真心に授けられる、生涯末代の宝であって、この理をうけて、親神のよふぼくの馳せ巡るところ、広い世界に不思議なたすけは相ついで現れる。(『天理教教典』23 頁)

皆さんがようぼくになる時に戴く「おかきさげ」にもあるように、「さづけの理」を戴いた日に定めた、人をたすける誠真実の心を、生涯の心として歩むことが大切です。定めたその日一日の心を生涯忘れずに守って通るところから、「一日生涯」ともいいます。私たちは、どんな時でも病んで苦しんでいる方々がおられたら、おさづけを取り次がせてもらいたいものです。

03. おまもり・御供 (ごく)・をびや許し

たすけ一条の道として、教祖は「つとめ」と「さづけ」を教えられました。なおそのうえに、「おまもり」「御供」そして「をびや許し」をお出しくださっています。

Happistでも
読むことができます!

「おまもり」は、教祖のお召しおろしの赤衣の布をもって作られています。それを昼も夜も身に着けさせていただきます。願い出た人は、教祖殿の御用場で、お話を聞いてから下付していただきます。

「御供（ごく）」とは、教祖の御前に供えられた洗米（御供米）のおさがりを包んだもので、身上たすけのためにお渡しくださいます。すっきりと心のほこりを払い、誠真実の心で、一心にお願いをしてから頂きます。「御供」は、神殿、教祖殿、祖霊殿のお守所で、また教会や詰所で下付されます。

「をびや許し」は、若い皆さんにはまだ早いかもしれませんが、ぜひ知っておいてほしいと思います。
これは、人間を宿し込まれた元なるぢばから出される、安産の許しです。をびやづとめの時に、かんろだいに供えられた御供をお下げくださいます。願い出た人はそれを頂き、ひとすじ心で親神様にもたれ、安心してお産をさせていただくことができます。「をびや許し」は「おまもり」と同じく教祖殿の御用場で、お話を聞いてから下付していただきます。

今回の語り合いテーマ

グループを作って、次のような話をしてみましょう。
心の中で自分自身に問いかけてみるのも良いかもしれません。

❶ 別席を何席運びましたか？どのような内容なのか、覚えていることを具体的に話し合ってみましょう。

❷ おさづけを取り次いだ経験はありますか？また、おさづけを取り次いでもらった経験はありますか？どのような気持ちになりましたか？

❸ おまもりを頂きましたか？御供を頂いたことはありますか？



Happistでも
読むことができます！